

富山高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	航海英語Ⅱ	
科目基礎情報						
科目番号	0201		科目区分	専門 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	商船学科		対象学年	5		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	「海事基礎英語」高木直之・内田洋子著 海文堂					
担当教員	西井 典子					
到達目標						
1. 船舶の運航に必要な基礎的標準海事英語を習得する。 2. 標準海事通信用語を使用して航海情報を伝えることができる。 3. 海事英語によるコミュニケーション能力を習得する。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	専門英語を十分理解し、説明できる。		専門英語を理解し、説明できる。		専門英語を理解し説明できない。	
評価項目2	標準海事通信用語を使用して航海情報を伝えることができる。		標準海事通信用語を理解し、英語で航海情報を伝えることができる。		英語で航海情報を伝えることができない。	
評価項目3	海事英語で十分会話することができる。		英語で会話することができる。		英語で会話することができない。	
学科の到達目標項目との関係						
MCCコア科目						
教育方法等						
概要	船舶職員に必要とされる専門英語の知識およびコミュニケーション能力を養う。					
授業の進め方・方法	教員単独による講義・演習を行う。					
注意点	3級海技士(航海)第1種船舶職員養成施設 上級航海英語講習に該当。成績評価は、定期試験(70%)と演習・提出物等(30%)による100点法とする。評価が60点に満たない者は、願出により追認試験を受けることができる。追認試験の結果、単位の修得が認められた者については、その評価を60点とする。					
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス 総説、SMCPの基本-1	SMCPの使用に関する基本用語、数字、応答、感度調整、位置、方位、針路、距離、速力等		
		2週	SMCPの基本-2	SMCPの使用に関する基本用語、数字、応答、感度調整、位置、方位、針路、距離、速力等		
		3週	自船情報の通報	目的地、喫水、余裕水深、積荷等		
		4週	操舵号令、当直引継ぎ	操舵号令、機関号令、スラスター号令、当直引継ぎ		
		5週	投錨、抜錨、錨泊	投錨、抜錨、錨泊の内外通信		
		6週	出入港	着棧、離棧、タグ、外部通信		
		7週	水先	水先要請、水先人の乗下船、船橋における水先人		
		8週	中間試験	第1週～第7週の内容の理解度を測る試験を行う。		
	2ndQ	9週	VTSとの交信	取り締まり、安全のための連絡		
		10週	遭難通信	遭難時の通信		
		11週	捜索救助活動	捜索・救助の依頼、捜索救助活動、医療援助等		
		12週	緊急通信及び安全通信	緊急通信、安全通信、安全通報		
		13週	航海警報	標識、浮流物、海底の状況等各種航海警報		
		14週	演習	学習した内容の総合的演習		
		15週	期末試験	第9週～第14週の内容の理解度を測る試験を行う。		
		16週	答案返却、解説、評価確認、授業アンケート	答案返却、解説、評価確認、授業アンケート		
モデルコアカリキュラムの学習内容及到達目標						
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	3	前2,前3
				明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	4	前3,前4,前5,前6,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14
			英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	3	前4,前5,前6,前9
				実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト)を適切に用いることができる。	4	前5,前6,前7,前10,前11,前14
英語運用能力向上のための学習	自分の専門分野などの予備知識のある内容や関心のある事柄に関する報告や対話などを毎分120語程度の速度で聞いて、概要を把握し、情報を聞き取ることができる。	3	前5,前6,前9,前11,前12,前13			

			母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、教室内外で英語で円滑なコミュニケーションをとることができる。	3	前3,前7,前14
			実際の場面や目的に応じて、効果的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト、代用表現、聞き返しなど)を適切に用いることができる。	4	前5,前6,前7,前10,前11,前14

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	30	0	0	0	10	0	40
専門的能力	40	0	0	0	20	0	60
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0